

A0301-06	非定常時使用配管の腐食管理をおこなうこと		
本文	非定常配管は常時使用されないがゆえに管理が疎かになり、腐食を見逃す可能性がある ので腐食管理を怠らないこと。		
リスクの種類	漏洩、環境汚染、火災爆発	関連目次・章節	
理由(何故)	非定常時にしか使用しない配管は管理が軽視されがちである。しかし、定常的に使用しな いために、滞留部の状態(沈殿物の生成、や温度の違いなど)により配管内・外部で腐食し やすい条件が生じ、腐食が進行することがあるため。		
方策	非定常時使用配管については、その特殊条件により起こり得る内部状況を推定し、適当 な機会をとらえて内部観察する。断熱材を施している場合は外面腐食を観察する。 観察結果に応じて定期的に腐食検査及び必要な管理を実施すると共に非常時に備える。		
事故例	<p>停電による緊急停止のため、ガス硫化装置の分解ナフサは通常使用していない配管を通 して半製品タンクに送液されたが、配管は局部腐食が進行し開孔しており、漏洩ナフサに よる火災発生が起こった。</p> <p>この配管は以前の改造に伴い使用しなくなったもので、配管内は気液の 2 相分離や腐食 媒体の存在で腐食され、翌年に更新することまで計画されていたが、停電時にあわててこ の配管を使用してしまった。</p>		
法的参考事項			
備考	<p>JST 失敗知識データベース・失敗事例</p> <p>加えて、非常時にトラブルの拡大を惹起する可能性もあり影響が大きく、管理の重要度は 高い。</p>		